



グローバル規模でのCO₂削減を

本田技研工業株式会社
代表取締役社長

福井 威夫

一般に環境対応技術は、大気汚染対策としての排出ガスのクリーン化、地球温暖化に対応するCO₂削減（燃費の向上）と、将来の石油エネルギー枯渇問題に対応する代替燃料車の開発の3種類があります。

排出ガスのクリーン化に関しては、1972年のCVCCエンジンをはじめ、Hondaは常に規制や業界に先駆けた取り組みを進めてきました。現在アメリカでSULEVの認定を受けているアコードは、マスキー法以前の車と比較すると、約1000分の1の排出ガスレベルを達成しています。このアコードは場所によっては、吸い込む空気よりも排出ガスの中の炭化水素濃度が低く、排出ガスのクリーン化技術はすでにある程度確立したと断言していいと思います。

こういった状況の中、Hondaはグローバルレベルでの環境問題である地球温暖化に対応していくことを最重要課題ととらえ、「最もCO₂の排出が少ない工場で、最もCO₂の排出が少ない製品を生み出す企業」を目指していきます。そのために、「全世界での製品と生産活動でのCO₂低減目標」を公表いたしました。全世界レベルでCO₂の低減目標を打ち出すのは、業界では初めての試みです。

これは、全世界でHondaが販売している二輪車、四輪車、汎用製品が使用される際に排出するCO₂の排出量を2010年に、2000年実績に対して10%低減するとともに、これらの製品を生産する時のCO₂排出量を、二輪車・汎用製品で2000年比20%、四輪車で10%、それぞれ低減を目指すものです。

この目標達成に向けて、先進技術を採用した次世代のパワートレインの開発を鋭意進めています。

四輪車での方向性としては、販売台数の大半を占めるガソリンエンジンの燃費をHondaが得意とするVTECなどの制御技術を進化させ、燃焼効率を高めることでさらに向上させます。その上で、ハイブリッド車は小型車、ディーゼル車は中・大型での適用拡大を図ります。



シビックハイブリッド

まず、ディーゼルエンジンですが、現在欧州のアコードに搭載され、高い評価をいただいているHonda独自開発のディーゼルエンジンをベースとし、さらなるクリーン化を進めています。このディーゼルエンジンは、ガソリンエンジンと同等レベルのNO_x値を求められる米国の規制、CARB Tier 2 Bin 5 をクリアする目処がたっており、3年以内に米国で販売を開始する予定です。また現在大型車用のV型6気筒ディーゼルエンジンの開発も行っています。

ハイブリッド車に関しては、ガソリン車との価格差を小さくしていくことが普及への大きな鍵を握ると考えています。2009年には、シビックハイブリッドよりもお求めやすい価格の新型ハイブリッド車を発売します。これは全世界で年間20万台販売する予定で、大幅な普及拡大を目指します。

二輪車では、フューエルインジェクションの適用を拡大し、2010年末までに世界で販売する大半の二輪車への採用を計画しています。また、フリクション低減や可変シリンダーシステムなど、燃費を向上させる新しい技術の開発も積極的に進めています。

汎用製品では、小型天然ガスエンジンを採用した家庭用のコージェネレーションシステムを2003年より日本で販売し、すでに約25,000台販売しています。今後、米国での販売も計画しており、家庭のエネルギー分野でもCO₂削減に貢献していきます。

また、排出ガスのクリーン化、CO₂低減と、エネルギー問題すべてに対応できる究極の環境技術である燃料電池車に関しても、独自の取り組みを続けています。



FCXコンセプト(2005年東京モーターショー出展 燃料電池車コンセプト)

2002年には、世界で初めて燃料電池車を日米で納車しましたが、その後もニューヨーク州や北海道などの寒冷地への納車、2005年には個人客へ納車するなど、世界で初めてで、唯一の実績を重ねてきました。また3年以内に、より小型化した燃料電池スタックと低床パッケージを採用し、環境性能とともに走行性能も大幅に向上させた新型の燃料電池車を発売する予定です。

こういった取り組みに加え、CO₂を排出しないでエネルギーを生み出す太陽電池事業にも参入します。Hondaが開発した太陽電池パネルは、製造時のエネルギーやCO₂発生量を従来の半分に削減し、薄膜太陽電池として最高レベルの発電効率を実現しています。すでにHondaの事業所に設置し活用しており、2007年からは熊本製作所で量産を開始します。



薄膜太陽電池 (Honda和光ビル)

Hondaは、人が移動して新しい場所に行き、知らない人に会うといった移動の喜び、そして運転する喜びなど、モビリティにかかわる喜びを次の世代に受け継いで行きたいと考えています。そのために、Hondaの販売する製品や企業活動の環境への影響を世界規模で最小化し、そして世界中のお客様に笑顔でHondaの製品を使っていたりすることを目指してまいります。

もちろん、環境対策だけに新技術を投入するのではなく、運転して、使って楽しく、ワクワクするような商品、そしてお客様の期待を大きく超える、Hondaらしい商品を開発していきます。環境対応とお客様の満足、この2つを達成してこそ、Hondaが世界中のお客様に「存在を期待される企業」になることができると確信し、今後もHondaらしい先進技術の開発を積極的に進めていきます。